



## 第28回日本時間生物学会学術大会のお知らせ（予定）

第28回日本時間生物学会学術大会を2021年11月20日（土）～21日（日）の2日間、沖縄県市町村自治会館にて開催いたします。

本学術大会は、日本の南端に位置する沖縄ではじめて開催されることから、「南視点の時間生物学：New Insight of Chronobiology from the South」と題し、熱帯・亜熱帯の視点から「時間」を概観し最先端研究を発表・討論しつつ、時間生物学に新たな潮流を生み出したいと考えております。特別講演には、新進気鋭の若手研究者お二人をお願いしております。木村亮介准教授（琉球大学）にはゲノム解析から明らかにした人の移動と時間に関して、そして Tobias Kaiser 博士（Max Planck Institute for Evolutionary Biology）には、新たな視点からのウミユスリカの生物時計研究に関して、ご講演いただける予定です。また、多様なシンポジウム6セッションとポスター発表も企画しております。新型コロナウイルス感染状況によっては開催様式に変更が出てくる可能性があります。その場合は学術大会ホームページで即座にお知らせするように致します。

沖縄には「万国津梁」として栄えた琉球王朝の精神が色濃く残っております。この地に数理から分子、個体、医療、社会環境、産業応用まで多岐にわたる分野の最先端研究者が一堂に会することで、時間生物学のさらなる可能性・発展の方向性を発信したいと思っております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第28回時間生物学会学術大会

大会長 竹村 明洋

（琉球大学・理学部・海洋自然科学科・生物系）



## 【大会概要】

会期：2021年11月20日（土）～21日（日）

会場：沖縄県市町村自治会館

大会ホームページ：<https://jsc28.okinawa/>

参加登録・演題申し込み：5月中旬よりホームページで登録受け付け開始

## 【プログラム】

### 特別講演

木村亮介（琉球大学）

Tobias Kaiser（Max Planck Institute for Evolutionary Biology）

### シンポジウム

「COVID-19 パンデミックにおいて時間生物学が貢献できること」

オーガナイザー：高江洲義和（琉球大学）、駒田陽子（明治薬科大学）

「ヘルステックによる時間生物学の層別化社会実装と普及」

オーガナイザー：三島和夫（秋田大学）、田原優（早稲田大学）

「哺乳類の階層時計の理解・応用 ～表層のリズムから深層の振動体まで～」

オーガナイザー：牛島健太郎（山陽小野田市立山口東京理科大学）、金尚宏（名古屋大学）

「生物にとって夜の光とは：月光から人工照明まで」

オーガナイザー：樋口重和（九州大学）、竹村明洋（琉球大学）

「生物の多彩な季節応答戦略」

オーガナイザー：吉村崇（名古屋大学）、久保田茜（奈良先端大学）

「南の生物と時間」

オーガナイザー：武方宏樹（琉球大学）、潮雅之（京都大学）

ポスター発表データブリッツ

ポスター発表

総会・奨励賞授賞式・受賞講演

懇親会（屋外施設で予定、新型コロナウイルス感染状況により変更の可能性があります。大会ホームページでお知らせします）

## 【新型コロナ感染防止対応】

第28回日本時間生物学会学術大会は、沖縄県主催イベント等実施ガイドラインに従い開催する予定です。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/koho/corona/20200617.html>